

作った 蛍田を！

田口信一郎（ゲンジボタル愛護会）

昭和の森・下夕田池隣の二枚の葦原の池寄りの方に、ヘイケボタルが沢山飛んでいるのを去年7月に愛護会の会員が発見。ゲンジボタルだけと思っていた昭和の森にヘイケボタルも棲んでいたとは驚きました。早速、会の活動対象にヘイケボタルも加えることになり、“ヘイケボタルとあつては、水田景観”だということで、葦原の片隅にミニ田んぼを作ることになりました。勿論公園側の了解を得てのことですが、数年前策定の昭和の森中期計画に、子どもの稻作り体験の為のミニ田作りが含まれていることもあって、公園側も積極的に協力してくれることに話がまとまりました。以後、原所長には実作業も含め、大きなお力添えを頂くことになります。

この計画の主旨は、ヘイケボタルやトンボや他の水生動物の棲む場・子どもたちの田んぼ体験の場を作ることで収穫は二の次ですから、通年水をはっての不耕起栽培です。年を越して今年2月、西川隊長指揮の下、土地の測量から始まる実作業にとりかかりました。将来はともかく最初は控え目にと、約30坪を3区画に分け棚田の形にすることにしました。

2月10日に始まって、数回の作業。雨に濡れ、泥にまみれ、湿地に足をとられての葦の根掘り・運搬畦作り・更に水路の掘削作業と、みんな汗だくの大奮闘、わいわい・がやがやと楽しい共同作業でした。そして、とうとう4月14日パイプから、音を立てて棚田に水が入りました。

『田んぼだ！ 田んぼだ！ ばんざい！』

5月に入って二回の代掻き、そして遂に5月12日待望の田植え（苗は会員の実家から分けていただいた）。小雨の中、田んぼ用の長靴や膝までの長靴を脱げないようにゴムや紐で縛り、印を付けたテープに沿って横並び、約30cmの間隔で一株一株植えていき、1時間半程で完了（約1,000株）。

疲れを忘れ大満足！この小さな田んぼを“螢田”と命名しました。

この後の大雨で一部がダメージを受けましたが、即刻対応し原状に復しています。全員の力を集めた共同作業で出来上がった螢田の稻穂の上を

---ヘイケボタルが飛ぶ夏を夢見て---



水路作り



田起こし



田んぼだ！葦の根を取りながら代掻き



田植え



早苗田の前で